

つたやしのミニネタコーナー

ミニネタ
No.21

教科書を読む意義を教えよう

国語の授業ではすらすらと教科書を音読できるのに、算数など他の教科ではまるつきりダメ…。よくある光景です。ここでご紹介するのは、例えば「算数の教科書の問題をはつきり大きな声で読ませたい」というときに有効な指導法です。

【指導法】

- ① ダラダラとした読み方でも気にせず、自由に読ませる。
- ② 読み終わったら、「教科書を伏せましょう」と指示し、全員起立させる。
- ③ 次のような問いを出す。
 - ★ 「何をどうする問題なのか？」
 - ★ 「問題には、5つのコップに入ったジュースのイラストがあり、それぞれ量が書かれています。その5つの量を全て答えましょう」

これらの問いは、教科書本

文を、「どの部分が大切なのか」を考えて読んでいないと答えられません。
④教科書音読の意義を次のように伝える。

★ 「『しっかり読む』とは、例えばこのような問いに答えられるように気を付けて読むことなのです」

★ 「脳に大切な情報をインプットするには『大きな声で』『何回も』読むことが大切です」

⑤再度読ませる。

これで子どもたちの教科書の読み方が変わるはずですよ。



イラスト | 吉田朋子